

## 家系研究協議会 (家研協)



## 第 95 号

2026年 令和8歳丙午 弥生 (3月20日)

\*\*\*\*\*

## 『豊臣兄弟』が始まりましたが・・・

今年のNHK大河ドラマは三年ぶりに戦国時代を舞台にした『豊臣兄弟』ですので興味を持たれている方は多いのではないのでしょうか。ただ、また三英傑を主人公にした番組かといった意見も多いようです。もっと地方のあまり知られていない武将が主人公だったら面白そうだなとは思っています（視聴率は取れないかもしれませんが・・・）。筑後の立花宗茂なんかやってもらえたらうれしいですね。

ところで、この『豊臣兄弟』を見ていて「えっ!」と思った箇所がありました。それは墨俣一夜城での活躍ののち侍大将になったばかりの秀吉の弟の秀長が義兄弟の弥助、甚助の三人で書面にて家来たちの管理を行っているシーンです。名前などが書かれた書類を見て、人数をカウントするために棒線を入れたりして、いかにも文字を読み書きしている感じでしたが、この三人は数年前までは貧乏農家だったはずで、数年で読み書きができるという設定には非常に違和感がありました。江戸時代には日本の識字率は高かったと言われていますが、それは平和な世の中になっていたため、戦国時代は文字の読み書きより戦場での槍働きのほうが優先された時代でしたから文字の読み書きができなくても何ら問題はなかったはずで。

ところが調べてみると、秀吉は信長に重用される頃にはどうやらある程度は文字の読み書きはできたようです。そうすると秀吉の一族で家臣でもある秀長や弥助、甚助などもそれなりに読み書きができて不思議ではありません。

あるいは秀吉は言われているような貧農の出ではなく、実際は豪農の出身で読み書きはもともと幼いころから学んでいたという説まであるようです。これならば後に秀吉自ら書いたと言われる文書が多く残っているのも肯けます。家族に書いた手紙には平仮名が多用されているから秀吉は平仮名くらいしか読み書きできないと言われているのは、家族への手紙だから平仮名が主体だったので、普段は漢字交じりの文書も問題なく書けたのではないかと思うようになりました。

秀吉の出自を書いた歴史書は江戸時代中期以降に書かれたものがほとんどで、殊更出自を卑しく書いた可能性もあります。本当はそれなりの豪族や豪農の出身だったのではないかと思うと、新たな史料の発見で大きく歴史が塗り替わる可能性もあり、今後の研究に期待したいところです。

(本会執行理事 馬原浩一)

家系研究協議会 ホームページ アドレス

<https://www.kakenkyou.org/>

~~~~~  
 発行者 家系研究協議会

編集・発行者

事務局長 馬原 浩一

Ⓔ=====Ⓩ

電話・FAX

事務局 馬原 浩一

// 通 刊 //

会計責任者

経理部長 須貝 隆弘

// 第123号 //

年会費

5,000 円

// 45年-4 //

// 昭和55年創立 //

郵便振替番号 00980-0-161483

名 義 家系研究協議会

Ⓔ=====Ⓩ

ゆうちょ銀行 記号 14260 番号 2569091

~~~~~  
 印刷・コピー 家系研究協議会